

# 少年ひのきしん隊、真夏の祭典に今年も参加



平成29年7月31日撮

# 北海道教区報

第539号

発行所

天理教北海道教務支庁  
札幌市中央区南8条西11丁目  
電話011(561)-1148  
FAX011(561)-1190  
E-mail:kyouku-h@vega.ocn.ne.jp

印刷

三浦印刷株式会社

## 天理時報は、教祖からの定期便

### 支部社友研修会

### 布教活動の手助けとして

教区文化広報部（加地道喜部長）は、去る5月30日、定山溪ビューホテル2階会議室「ペガサスの間」を会場に、道友社、編集出版課・松本泰歳課長をお迎えして、立教180年北海道教区支部社友研修会を開催した。

研修会は道内支部社友はじめ、教区から高橋総務部長、加地代表社友、教区報編集部からも3名がスタッフとして参加して行なわれた。

松本課長は、道友社に勤めて34年。時報の記者を皮切りに、時報のデスク、「みちのとも」のデスクなどを歴任、昨年編集出版課長に就任された。

研修会では、冒頭お道の文書伝道の歴史と歩みについて触れられ、明治24年創刊という、現存する今日まで続いている刊行物の中では最も古いもののひとつである「みちのとも」について、また、昭和5年創刊の「天理時報」出版の意義とこれまでの歩みなどを紹介された。

特に時報の持つ役割については、「社会の荒田起こしとなるべく、おみちの種を広く社会に蒔くための使命を任されて発刊されたものである」とし、教内

ニュースの伝達と、にをいがけの両立が永年の課題であると述べられた。また時報の編集においては、「以前からの時報を見ると、人々の共感を呼ぶ記事のほとんどが、社友による提供記事である」とのべ、時報の内容充実には、社友の記事提供が欠かせないと話された。

### 手配りは地域のモデル活動

また時報の手配り活動については「天理時報は、週に一度教祖から贈られる定期便である」と、また「時報を介して教友同士つながりを生み出す手配りは、一人暮らしのお年寄りにとっては、見守り活動にもなっている」と実際の事例を披露し、「人が孤立していく現代社会において、縁や絆の種をまくこの活動は、地域社会におけるたすけあいのモデル活動にもな

## 天理教北海道教務支庁

# ■9月3日 記念祭 ■9月2日 合祀・慰霊祭

## 《記念講演》 大畑道雄先生 本導分教会長（東本）

【講師紹介】昭和60年より32年間、補導委託員として、明るい街づくりに貢献してこられた。補導委託員とは聞き慣れないが、罪を犯した少年を預かり、共に生活し、更生の手助けをすることが役目であり、また、補導委託を知らない人に、その取り組みを伝えることも役目としている。

北海道教区のホームページ <<http://tenrikyohk.wixsite.com/tenrikyo-hk>> 教区報がご覧頂けます。

り得る」と今後の手配り活動の  
広がりを求めるともに、「手配  
りひのきしんをしてくださつて



いる教友は、教内でもっとも活  
動的なようほくであるといえる  
のではないかと話し、全国各  
地ではよくとしての自負心を  
もって活躍されているひのきし  
ん者の方々を紹介した。

### 大切なはじめのひと時

時報の記者は10人いて、その  
大半が20代の若者で教会の後継  
者である場合が多い。記者とし  
てなんとか一人前になる5年で  
退社していくのがほとんどで、責  
任者としての悩みは尽きない。  
しかし松本課長は「時報は毎週  
出版するので、そのつとめはま  
さにエンドレス。若い記者たち  
は、それこそ涙ぐましい努力を  
しております。全国の貴重なお



たすけの取材に行かせていただ  
き、懸命にその思いに伝えよう  
と記事にしていますが、仕事の  
上でも信仰の上でもまだまだ経  
験が浅いので、記事を作る手が  
とまることも屡々あります。そ  
んな時彼らは、神殿に足を運び  
お願いつとめをします。彼らは  
いつも『神様に書かせていただ  
く記事』を心に、神様の心が映  
るように、自分自身の心を澄ま  
すよう努力を重ねてくれていま  
す」と話した。さらに、  
「毎週水曜日の深夜、すべて  
の作業を終え、翌朝まだインク  
の匂いの新しい刷り上がったば  
かりの天理時報に『御供』の半

### 基礎講座北海道会場

- 8月21日(月) 教務支庁
- 9月24日(日) 釧根会場
- 10月1日(日) 天龍会場
- 10月29日(日) 倶知安会場

(どの会場も1時30分〜3時迄)  
※ビデオと講師のお話による、天  
理教の紹介コースです。天理教  
のことを知っている方にも、まっ  
たく初めての方にも親しみやす

紙をかけ風呂敷に包み、時報編  
集に関わったスタッフ全員で東  
礼拝場に行きおつとめをつと  
め、最後に御宅にお届けする。  
これが毎週行われる編集部を決  
まり事です。親神様、教祖への  
一週間のお礼と、これからの一  
週間をお願いをさせていただ  
く、大切なはじめのひと時です」  
と普段知れない時報編集にこ  
もる真実をお話しくださった。  
研修会ではその他にも読書会  
の有効活用や、昨今のインタ―  
ネットを媒体とした利用状況な  
ども紹介。さらに支部社友とし  
てのつとめについて説明があ  
り、質疑応答の後、教区報担当  
者より記事依頼ののお願いを  
し、研修会を終えた。

い内容で、家族への信仰伝導に  
もお役立て下さい。

★7月16日稚内市(宗谷支部  
長・五十嵐仁)に会場を設けて  
同講座を開催、37名の受講が  
あった。

初めて本講座を受講した方が  
10名、一般、信者の方が10名と  
いう「天理教を紹介する講座」  
に相応しい講座を開催すること  
ができ、管内の教会長さんの方  
日頃からの布教が活かされた場  
となった。

### 支部総会報告



●小樽支部(高橋義清支部長)  
では、7月2日、好天に恵まれ  
小樽天理教館にて支部総会が開  
催された。

午前は式典に続いて、記念講  
演に幾寅分教会長中村則之氏を  
お迎えした。ご自身の体験を通  
して、日々陽気ぐらしを現すヒ  
ントや信仰の喜びを楽しくお話  
しくださった。

午後は恒例の、お楽しみ広場  
を開催。各種模擬店が用意され  
教友の懇親がはかられた。雅楽  
演奏や鼓笛バンドの演奏とダン  
スが参加者を楽しませた。

最後の抽選会までたいへん盛  
り上がり、賑やかな総会であつ  
た。参加者 170名 (内少年会  
員44名) 支部社友・境



# 「復興ひのきしんを 続けてきて」

八雲支部長 逢見 典道



私は6年前の東日本大震災を  
通して皆さんの事を学ばせて  
頂いています。

その思いを感じたままに書い  
てみたいと思います。

ものやお金はかなりの安全を  
与えてくれると思いますが、何  
かのきっかけで自分の生き方を  
変える事があるとしたらいかが  
でしょうか。この度の3・11巨  
大地震は、大地や建物だけでは  
なく、そうした物やお金にしが  
みつく常識をも揺さぶり、人の  
気質とかプライドや格式や対面  
ばかりを重んじる、閉鎖的でき  
こちない虚栄みたいなものを、こ  
の巨大地震は心の中で直撃し  
て打ち壊したのかも知れませ  
ん。

3・11巨大地震直後の何も無  
い中から、今、新しい意識が生  
まれている。小さなとても小さ  
いかも知れないけど生まれてき  
たと、私はそんな感触を持ちま  
した。

そんなに唐突に自分の生き方

を変えられるものかと思うかも  
しれませんが、いったん生死を  
分けるような経験をする、人  
は一瞬にして自分を変えること  
が出来ると思いました。

例えばちょうどタバコを止め  
ることが出来なかった方が「肺  
がん」ですと宣告された途端、タ  
バコと縁を切ることと同じよう  
に、避難先や仮設に移った後「何  
か家に取りに帰りますか？」尋  
ねられたのに、「何も要りませ  
ん！もし取り出せるものがある  
としたら、役に立つものが有る  
なら、何処かで困っている人に  
差し上げて下さい」と言う方が  
おられました。「何もいりませ  
ん」と仰っしゃった時のさわや  
かな気持ち。「生きていく」「あ  
りがたい」、これなんだと思わ  
ずにはいられません。

つらくても人の思いは波動で  
伝わります。たとえば、普通の  
生活の中で、家族が和やかにし  
ている所に、誰かが不機嫌な態  
度で何も言わず座っていたら、他

の家族もそれを感じてみんなが  
不機嫌になってしまいます。  
また反対に嬉しいことや楽し  
いこと、良いことも伝わります。  
優しい気持ちも被災した、罹災  
した人の側にいるだけでも伝わ  
ります。にこやかな人が一人居  
るだけで、全体がにこやかにな  
るし、赤ちゃんがニコニコして  
いたら、その場がみんなニコニ  
コするのと同じです。

そして祈ることも、寄り添う  
ことと同じです。その思いは必  
ず伝わります。被災地の人たち  
を、私達一人ひとりが応援しま  
しょう。被災した人の辛さを私  
達はなりかわることは出来ない  
けれど、辛さを理解することは  
出来るし、まだまだ復興応援す  
ると言うことは大きな愛の行為  
だと感じています。

祈りという愛の行為にはどの  
ような言葉をもってしてもかな  
いけません。被災した罹災した人  
が少しでも良くなるように、幸  
せになって行くように思い続け  
ることが大切だと思います。ま  
たそれは祈る私達自身をも癒や  
し、救ってくれるものなんだと  
思っています。

「続けてこそ道」これからも  
応援を続けて行きます。ありが  
とうございました。

## ●富良野支部総会

7月8日、富良野支部（岡田  
正弘支部長）では、富良野分教  
会を会場に総会を開催した。（参  
加者・58名）

この日は10時から祭儀式を始  
め、その後、おつとめは各組ご  
とに分担し、毎年恒例の、よろ  
づよ八首は少年会、青年会、学  
生会がつとめた。

支部長の挨拶後は、各部から  
の連絡があり、直会では、老若  
男女問わずのミニゲーム（バト  
ンリレー、腕相撲）が行われ、年  
齢別、夫婦別、親子別で競った  
ので大いに盛り上がった。

## ●北見支部（吉岡泰雄支部長）



北見支部

では、7月9日に、訓子府町の  
本訓分教会を会場に、おつとめ  
総会を開催した。年に一度の総  
会は、支部内の教会長、よふほ  
く、信者の親睦と交流により、お  
互いの信仰を深める意味があり  
ますが、約50名が集って和やか  
な雰囲気ですぐ終わりました。9  
時に献せん、10時から座りづと  
め、12下りまでを4交替で勤  
め、新支部長のお話と旧支部長  
の挨拶があつて、直会では、本  
訓分教会から豚汁とおにぎりが  
ふるまわれて、和気あいあいと  
今年後半の活動についても話し  
合いました。



富良野支部

### 教誨師研修大会

去る6月20～21日網走市で、「第53回札幌矯正管区教誨師研修大会」が開催され、現在12名の教内の教誨師がいるが、7名が参加した。



「未来へ」→更生への気づきを喚起させる教誨を目指してとの主題の下、勉強をした。

### 実技勉強会でゲームマスターに

6月29日、少年会教区団(久米田忠彦団長)では、おちばがえりを前に、「実技勉強会」を開催し、20名が、色々な場面で行えるゲームマスターになるよう学んだ。

夏はこどもおちばがえりがあり、各教会でもお泊り会をするチャンスで、親睦を深めたり、楽しい雰囲気づくりのために、ゲームの実技は実に有効である。そ

### ◎ひのきしんスクール 「依存症のおたすけ」

8月19日AM9:00～PM4:00

深川経済センター

- ・田中紀子氏 ギャンブル依存症問題を考える会代表。本人も依存症で悩み、現在は依存症者と家族の間に入り、立ち直りの支援活動をしている。
- ・山本茂氏 天理教陽海分教会長、自らも経験者であり、道一条になつてからは依存症・多重債務者のおたすけ活動が続いている。
- ・若狭一廣氏 ひのきしんスクール運営委員・ファミリーホーム「陽気くらしの家わかさ」代表

現代の難症救けの一つに依存症が有る。薬物、アルコール、ギャンブル、買い物、ネット、携帯等その種類は多く、本人の自覚がないまま依存症に陥っている人は非常に多い。債務などの金銭事情を抱えたり家族が崩壊していくケースも。

この講座では、特に心に焦点を当て、専門家や当事者の話を聞きながら、依存症を病む人達とその家族へどのような支援、おたすけが出来るのかを共に考えたい。



こで今回、少年会本部から講師を2名招き、少人数から多人数、室内でも野外でも遊べるゲームを体験した。受講者の目的意識が高いので、すぐに盛り上がり、「こんなに面白い研修は初めて」という感想が聞かれた。

### 「育成に役立つ講習会」 教区学生担当委員会

7月8日～9日の日程で、教務支庁を会場に開催された。

これまで各教区・直属で「HARP講習会」として開催していたものを幅広いニーズに応えるために名称及び内容を改めて開催。

HARP体験コースとHARPトレーナー養成のためのまな



びばコースに分かれて、参加者ひとり一人が人材育成の現場において即戦力となり、スタッフ間のチーム力を高めるためにも有効な講習会として開催の運びとなった。

講習会には、本部学生担当委員会より松山勇一委員長始め、計5名のスタッフを迎えて、体験コース11名、まなびばコース13名の参加者に、教区スタッフ5名、食事ひのきしん6名で行われ、日程の都合上参加出来ない方もいた中ではあったが、「人材育成」の大切さを打ち出していたらいいこの旬に大変有意義な講習会であった。関係者各位に心より御礼申し上げます。(記・新井田直嗣)

### けいじばん

◎法律に関わる諸問題で相談の方は弁護士を紹介致します。教務支庁内の書記(渡部)までご連絡下さい。

### ◎手話・点字講習会

毎月1日、教務支庁にて午後6時から8時まで行います。※雅楽練習会も併行して開催しています。(三布連)

◎毎月26日に本部月次祭遙拝式をおこなっております。

### 北海道教務支庁日誌抄

(6月18日～7月17日) 6月 18日 第187回基礎講座千代田会場 講師 内田 誠司先生 (受講 57名 累計8千330名)

26日 本部月次祭遙拝式 (受講 57名 累計8千330名) 29～30日 少年会実技研修会 30日 青年会 常任例会

7月 1日 たすけ推進会議 2日 支部長会議 3日 災救隊 スタッフ会議 4日 任命願書発送

8～9日 学生担当委員会・育成に役立つ講習会 15日 しらゆき会 例会 16日 婦人会 ままっぶ開催

第188回基礎講座空室会会場 講師 中村 則之先生 (受講 37名 総数8千367名) 18日 教区報編集会議